

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①課題解決能力、プレゼンテーション能力を伸長する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事の企画・運営を生徒主体のものとし、生徒の社会性と実践力の向上を図る。</p>	<p>①アクティブラーニング(AL)の視点を踏まえた授業研究と実践および教育課程の見直しを進める。</p> <p>プログラミング教育研究推進校として地域の学校への情報発信に取り組む。</p> <p>②学校行事の内容・ねらいを整理し、さらなる充実に取り組む。</p>	<p>①教員向けAL研修会を開催し、ALを導入した生徒主体の授業を全教科科目で計画的に実施する。大学入試改革を意識した教育課程の編成を行う。</p> <p>プログラミング教育推進のための職員向け研修会と公開授業を実施する。</p> <p>②生徒主体の学校行事の見直しと、年間授業時数の確保を行う。</p>	<p>①実施後、教員の理解が深まり実践につながったか。</p> <p>教育課程の編成ができたか。</p> <p>校内への共通理解と地域の学校への情報発信ができたか。</p> <p>②行事の見直しとともに年間授業時間数の確保ができたか。</p>	<p>①各教科でALを導入した生徒主体の研究授業を実施し、授業について活発な意見交換ができた。高大連携を意識した教育課程を編成した。今年度はプログラミング教育推進のための職員向け研修会と公開授業を実施した。</p> <p>②文化祭の準備期間を半日、球技大会を1日減らす一方で、実行委員会を早めに実施し、自主運営に対する意識を高めた。</p>	<p>①教員向けのAL研修会ができなかったため、来年度は内容を工夫し実施する。大学入試改革を意識し、また次期学習指導要領につなげるような教育課程を継続して検討する。プログラミング教育を全教科で実施する取り組みを検討していく必要がある。</p> <p>②引き続き授業時間の確保の必要性が増す中で、いかに行事の質を確保していくか検討していく必要がある。</p>	<p>①次期学習指導要領を意識し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」など先を見据えて、教育課程の編成をするとよい。プログラミング教育の地域の学校への情報発信はすばらしい。</p> <p>②行事の準備期間を減らすことが本当によいのか。</p>	<p>①ALを導入した生徒主体の研究授業は実施できたが、職員対象の研修会が十分とは言えなかった。高大連携を意識した教育課程を編成したが、大学入試改革への対応も必要である。</p> <p>②行事の精選はできたが、今後は質を高め、自主性を育成する必要がある。</p>	<p>①ALに関する職員対象の研修会を企画し、教材や指導方法の共有化に取り組む。</p> <p>次期学習指導要領を検討し、新たな教育課程の作成に取り組む。</p> <p>②学校行事を通して自主性を育成する機会を検討する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりのニーズに応じた支援のため、教育相談コーディネーターを核とした生徒支援体制の構築に努める。</p> <p>②部活動の活性化をととして社会性の育成を図る。</p>	<p>①支援教育の推進について職員全体で理解を深め、支援が必要な生徒への対応策を共有化する。</p> <p>②地域の行事への部活動の積極的な参加を図ることで社会性を育成する。</p>	<p>①支援教育について職員向けの実践的研修会を開催する。学年単位の教育相談体制を充実し、ケース会議等により個別の生徒の状況を共有化する。</p> <p>②地域と部活動の交流の機会を充実する。</p>	<p>①実施後、教員の理解が高まったか。</p> <p>学校全体で、個別の生徒の状況を共有し、課題解決につながったか。</p> <p>②地域の行事に参加できたか。</p>	<p>①いじめをテーマにロールプレイ研修を行い、生徒の心理や声かけの仕方について理解を深めた。生活状況アンケートを実施し、問題を抱える生徒の把握に努めた。</p> <p>②生徒会本部役員が北條五代祭りに参加(5月)、吹奏楽部が養護学校との交流演奏会(12月)を実施した。</p>	<p>①スクールソーシャルワーカーなど外部機関と連携してケース会議を充実させると共に生徒の問題の早期発見に努める。アンケートを継続的に実施し、面談などで有効に活用する仕組みを作る。</p> <p>②部や地域貢献デーにおける学校周辺の清掃活動とともに、地域の行事への参加により、引き続き地域との連携に取り組んでいく。</p>	<p>①全体的におとなしい生徒が多いので、生徒個々の問題の早期発見に努めてほしい。</p> <p>②地域のイベント情報を積極的に取り入れ、参加できる行事には、学校として取り組んでほしい。</p>	<p>①アンケートの実施で、心に問題を抱える生徒を把握することができたが、支援体制を検討する必要がある。</p> <p>②地域の行事への参加をすることができたが、参加する部活動や生徒の数を増やしたい。</p>	<p>①アンケートを継続的に実施することで、問題を抱える生徒を把握し、面談等で有効に活用する支援体制を構築する。</p> <p>②部活動を通して地域との交流の機会を増やしていきたい。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①進路指導の充実を図ること で、生徒が自らの将来を積極的に開拓し、実現につなげる能力を育む。	①入学段階から自らのキャリアを意識させるための体系的な取り組みの充実を図る。	①インターンシップ等体験的・実践的活動への情報を提供し、参加を促進する。 総合的な学習の時間を活用して将来を考える動機づけからはじまる計画的なキャリアプログラムを構築する。	①インターンシップや各種講演会等への積極的な参加ができたか。 計画的なキャリアプログラムへの働きかけができたか。	①1学年では職業観の育成をはかるべく、職業体験や働くことの楽しさを知るイベントに参加し、2学年では大学の出張授業等を行い、進路の方向性を定め、3年では自身の進路に対する具体的な探究活動を行った。	①総合的な学習の時間における、探究活動の時間を重視される傾向をふまえ、その活動をとおし、ブレインストーミング、ディベート、ディスカッション等のアクティブラーニング的な学習活動を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力や論理的思考力を高めていく必要がある。	①卒業生の活動を同窓会等で把握し、会社や地元情報を活かしてほしい。 大変極め細かく実施しているが、高校2年で将来の職業を判断できるか疑問である。	①インターンシップの体験生徒数は8名であり、継続的に積極的な参加を促進していく。職業観の育成をはかる取組みで、生徒の進路に対する探究活動を行うことができた。学校ごとの比較が今後必要である。	①総合的な学習の時間の中で、探究活動を通して、コミュニケーション能力や論理的思考力を高める学習活動の指導案の検討に取り組む。
4	地域等との協働	①地域や関係機関の教育力を生かした連携を推進し、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進める。	①安心・安全を主眼とした活動をとおして、地域や関係機関との協働・連携を深める。	①関係機関と連携した計画的な交通安全教育を推進する。 関係機関と連携し、ICTを活用した防災教育を推進する。	①生徒の交通安全に対する意識が高まり、交通事故被害件数が昨年度より減少したか。 生徒・教職員の防災意識が高まり、行動につながったか。	①交通事故被害件数は、8件から2件に減少した。 全校避難訓練、企業と連携した宿泊訓練、ICTを活用した防災教育、DIG訓練を行い、生徒・教職員の防災意識を高めた。	①警察に講師を依頼して交通安全教室を開き連携を図っていく。 一部の生徒の防災意識は高まったが、防災にICTがどのように活用できるか検討する。	①登校時のマナーは十分とは言えない。 地域の避難訓練で学校を借りて実施した実績もあるので、自治会独自で考えたい。	①ポスター掲示や対応マニュアルで被害件数は減少したが、登校の実態では、教員がいなときのマナーの指導が課題である。 防災意識を高めることができたが、防災にICTを活用した授業を継続できるかが課題である。	①警察と連携し、交通安全講話や全校集会等で、交通安全教育を推進し、交通事故被害件数を減少させていく。 防災意識を高めるために、防災教育の推進に努めていく。
5	学校管理 学校運営	①職員一人ひとりが意欲と責任をもって安心安全な環境づくりに取り組み、課題解決に向けて積極的に取り組む学校文化を形成する。	①校内業務における事故防止に向けた体制作りを進める。 グループ業務の検証を行い、機動力のある組織の再構築を進める。	①事故の未然防止に向けて、演習形式を取り入れた実践的な研修の機会を充実する。 グループ業務全般の見直しを行い、グループを再編成する。	①事故不祥事防止研修の実施回数および職員の理解を高めることができたか。 グループの再編成により、業務の効率化ができたか。	①職員会議前に事故不祥事防止研修を毎月実施し、職員の意識・理解が高まった。 グループ業務を見直し、グループを再編成し、業務の効率化を図った。	①教職員の不祥事根絶のために、引き続き校内で実践的な研修を実施する。 不祥事防止を啓発する標語を作成する。 グループ間の業務の連携が今後の課題になるので、継続して業務の見直しをしていく。	不祥事防止については継続的に実施してもらいたい。 業務全体や部活動のあり方も考え、働き方を見直すことは必要である。	①不祥事防止を啓発する標語を各グループ毎に作成し意識を高めた。継続していくことが必要である。 グループの再編成で、個々の業務を見直した。引き続き、働き方改革に繋げていくことが必要である。	①不祥事防止を啓発するために標語を掲示し、意識を高めていく。 グループ業務の効率化だけでなく、部活動顧問の業務も検討を続けていく。